

令和2年度第2回仙台市青葉区区民協働まちづくり事業評価委員会議事要旨

日 時：令和2年9月24日（木）

13時30分～15時30分

場 所：青葉区役所4階会議室

出 席：島田委員長、青木副委員長、小川委員、
加藤委員、金委員、白石委員

※過半数の出席により委員会成立

1 開会

2 挨拶 仙台市青葉区区民協働まちづくり事業評価委員会委員長 島田 福男

3 議事

(1) 議事録署名人選定 金委員

(2) 事前説明・打合せ

(3) 令和2年度まちづくり活動助成申込事業 事業計画説明会

◇各団体プレゼンテーション

◇質疑応答意見等

①Via 仙臺

委員 このコロナ禍の中で非常に制約もあり、どうしても消極的になりがちの中で積極的に事業の申請をされたということに対しては意義があるものと思っている。その中で、時間もなかったとは思いますが、実際に事業を行う場合の、このコロナの感染対策という意味で、3密を避けるということもあるが、どのような形態で参加者を募り事業を行うのかということが1点質問である。また、この予算の中で、同じように感染対策等の予算として何かしらの計上があるのかなと思っているが、見当たらないため、その辺も含めて2点質問とさせていただきたい。

説明者 まず、事業の募集に関しては、SNSを中心に関連する団体さんとシェアで拡散させていきたいと思っている。さらに、チラシについては、文化施設等を中心に置かせていただきたいと思っている。コロナに関しては、施設利用する上では非常に開放的な場所を選定したつもりであるため、密を避けるということと、街歩きのため、屋外で、かつ歩く上でも三密を避けるように、離れて距離を保ちながら歩くというところを考えている。また、講師の方にお使いいただく、例えば拡声機等はしっかり用意して声が届くようにすることや、印刷物等でもしっかり情報を伝えて、聞き逃した方に対してもしっかりフォローできるようにすることが大事と考える。知り合いの旅行会社の方に聞いたところ、例えばお金のやりとりや資料の配布のところでも、感染するのでないかとそういうお叱りもあったようであるため、そういったところもフォローできるようにしたい。例えば、資料を事前に何らかの形で配布することや、配

布する際にも、感染しないよう手袋をつけて渡す等、そういった衛生管理を徹底していきたい。また、お金に関しても、基本的には現金でやりとりするにしても、お釣りを出さないようにする等、工夫の範囲で感染対策を考えている。

委員 2点ほどお伺いしたい。いただいた書類を見ると、団体としての設立は9月1日、会員の方は10名との記述があるが、書類の4ページ、事業実施体制には、代表と委員という表現で、10名のお名前がある。この方々がいわゆる会員という理解でよろしいか。そうすると、今回の団体としては、9月からスタートしていて、先ほどご紹介いただいた活動の部分では、こういった皆さんとは既に色々と一緒になされている方々の構成であるという理解でよろしいか。それが1点目である。2点目は、スケジュールについてである。活動スケジュールで、6ページにはアーカイブの編集作業、予算の方にもアーカイブのWeb制作と書いてあるが、このあたりの取り組みと、これがどのように活用されていくのか、おそらく先の部分かと思うが、今回のご提案の方では少しこの辺のところが見えなかったため、補足をいただければと思う。

説明者 アーカイブのWeb制作とは、まち歩きや古地図バー等で360度カメラを使った撮影をし、それを動画投稿サイトにあげ、誰でもいつでも無料で閲覧できるような状態にすることである。また、講師の先生も参加しないと聞かなかつたりというところもあるため、今後はこの助成の方には計上しない事業であったり、独自でできる事業といったものもすべてアーカイブしたい。また、当然コロナ禍にも対応するというので、動画投稿サイトでしっかりアーカイブし、一度見られるようにすることで、そういったものが蓄積されていくと考えている。また、今後、他の団体さんも自由に活用していただき、別の動きにつなげていけたら良いと思っている。

委員 座学とまち歩きということで、楽しい事業になると思っている。色々な団体と協力関係にあるということだが、コロナ禍で、そういう団体との連携体制等に何か問題はないか。

説明者 特にはない。基本的に、オンラインで済ませられる範囲はすべて済ませるということを考えている。ミーティング等も、常に映像と音声でできる時代になっているため、ほぼコストがかからずにできている状態である。そういった中で、緊密に連携を取っていきたいと思っている。

②一般社団法人 IKI ZEN

委員 話を伺い一つ気になったことが、DJイベントということで、参加者の年代や層が少し限られてしまうのかなと思うが、その辺はいかがお考えか。

説明者 年代等々について、もともとDJイベント自体が若者中心のイベントと、30代~40代の若者以外のイベントというように、実は細分化されている。私達がイベントでやっている音楽はハウスミュージックというダンスミュージックで、それは比較的年齢層が高いものである。とはいえ、親子連れというところがあるため、子ども達の参加もある。スタッフとしては大学生等にも手伝っていただいているが、主なターゲットと定めるところは30代~40代である。

委員 30代~40代プラスそのお子さん方ということか。

説明者 その通りである。近年、学校ではダンス教育もあるため、結構子どもの参加も多かった。

委員 それは前回の実績か。

説明者 前回の実績である。

委員 とても興味深いなと思って聞いていた。イベント自体すごく盛り上がりそうだなということと、まさに若年層の皆さんがコミュニティーを作る場になると感じた。例えば、町内会で何かあったとしても、そういう年代の方がいらっしやらなかったりするため、こういった場所を利用してやることはすごく素晴らしいと思った。ただ、実際には飲食やダンス等、接触を生みそうなカテゴリーのものが非常に多いなと思っている。今まで実施されてきたところから、だんだんコロナでの縛りもきつくなる時期に入るのかなと思うが、例えば申し込みの皆さんの事前チェックシートや、連絡先を聞く、非接触型の体温計を設置すること等、コロナ対策が予算では2万円位しかないが、どのようなところをイメージされているのか。また、80名位の方がいらっしやるというのは、同時に80名の方がいらっしやるイメージなのか、述べの参加者か。大体は最大の人数を少し押さえながら、接触も避けることとなる。必ずしも外だから、コロナが蔓延しないかといったらそうでもなく、やはり接触の機会を減らすことが必要だと思う。その辺の工夫があったら一つ教えていただきたい。もう一つは、今後のイベントの繋がりということで、最後に出していただいているが、DJイベントやダンスイベント自体に集まった方を次どこにつなげるかというその具体的な展開、例えば抱き合わせて何か防災のイベントをする等、地域につなげるような何かがあるか。青葉区に来ている皆さん、地域の皆さんが繋がるような、何か次のイベント以外のもので具体的な考えがある場合は、そちらも教えていただきたい。

説明者 まず、コロナ対策について、入場数が前回80名というのは延べの人数である。時間帯によっては、10名、20名の時もあった。密にならない空間ということで、イベントを開催した。さらに、マスクの着用も呼びかけ、消毒等々も実施するようにしていた。また、前回は、住所、名前、連絡先を書いていただき、何か起きた場合には、把握できるよう実施した。今回も同じことを実施しようと思っているが、今回はアンケート調査もWebのGoogleフォームにて行う。何かあった場合でも、きちんと連絡がとれるような形で、開催していきたいと思っている。飲食についても、販売の数を絞っている。販売を始める時間帯も、ずっとではなく、お昼から時間を見分けながら、コスト等も抑えていきたいと思っている。また、防災については、コロナ禍で、なかなか震災10年ということは、我々もそうだが、抜けているところかなと考えている。私自身、震災の時にこのDJの繋がり、イギリスのBBC放送のクルーの方に対して被災地を案内する等色々な形でこれまでの防災に携わってきた。コロナ禍でなかなか動けないところであるが、我々の力だけでなく、東京の著名なアーティスト等とのコネクションを活かし、今回も様々なイベントを実施していくにあたり、その方達からの呼びかけや、さらには色々な伝承館の方にも足を運んでいただくお話などを考えている。また、トークセッション等と音楽を通じた震災、防災の活動ということで、ゲストをお呼びしてお話をお伺いする機会を作る等、来年体制が整った場合には、やっ

ていきたいことと考えている。

委員 3点ほど質問させてほしい。まずは、本年度8月に実施されているということだが、その際80名ほど集客があったと。その際、参加者からの感想は何かお聞きしたかどうかということと、その時にアンケート調査をしていたならば、どのような回答があったかということをお聞きしたい。2点目は、前回やってみて課題も出たと思うが、その課題を今回の計画にどのように反映しているか、どこに工夫をしているか。3点目は、参加割合について、親子で何割、外国人で何割か。加えて、すごく良いイベントだと思うが、障害をお持ちの方等にもやさしいイベントなのか、そういった方々にもきちんと情報が伝わるものかという部分をお聞きしたい。

説明者 1点目のアンケートについて、前回とはとる機会がなかった。そのため、来場者の方と、受付でお話をした際に拾った声をこちらの企画書に反映させた。今回はきちんとアンケートをとることによって、この時期に皆さんが何を考えておられるか、この先、大きいイベントもたくさんあると思うが、イベント自体は小さいイベントもたくさんある。そのため、モデルケースになるよう、アンケートを今回からはとっていききたいと考えた。2点目について、割合は80名の内、外国人留学生の方は10名ほど、家族連れの方が多く、20~30名いたという感じである。3点目は、障害者の方々への周知という方法が今のところすぐに具体的には出てこないが、仙台としておきの音楽祭等もあるため、何かしらコンタクトをとってこちらのイベントも周知していければと思っている。私自身過去に、障害を持っている方の20歳のお祝いの成人式の時に、DJをさせていただいたことがある。その時にはやはり音楽で踊っていただいた経験もあるため、今回も考慮しながら事業実施していきたいと考えている。

委員 2点ほどお聞きしたい。1点目は、既に10月10日に事業実施するというので、日にちがないが、この助成のあるなしに関わらず、実施するとのことで、助成があった場合となかった場合で、事業内容は大きく変わるのか。2点目は、アンケートを実施するとのことだが、アンケート用紙を何部作成等はないが、大体何部を考えているのか。

説明者 事業実施について、基本的に安全対策のところ等は削っていけない部分と思っているため、そちらに関しては万全にやっていきたいと考えている。他に調整すべきところは、レンタルする会場の時間や、音響機材の経費である。音響機材については、前は私のものを持ち出したりしたのだが、さすがに私物であることから、なかなか使いつらいという出演者の声もあり、きちんと借りなければいけないなと思った。ただ、助成なしとなった場合には、出演していただく方にも気を配らなければならないところであるが、極力そういうところを削っていくことで考えたいと思っている。親子の触れ合い等は削らずにやっていきたい。アンケートについて、今回はGoogleフォームというWebのフォームを使う。そちらの方に設問を書き、来場者全員にとればと思っている。

委員 2点ほど質問である。1点目は、提案書の12ページに情報発信プラットフォームという記載があるが、少し補足をいただけたらと思う。また、今回助成事業としてご提案いただいた点が最後に話のあった、今後の防災に繋がるようなコミュニティーづく

りを目指してとのことと思うが、提案書の中にある、音楽をキーに集まるファミリー層などの可視化をしていくそのコミュニティと、最後つなげていきたいという目指すコミュニティがすぐに繋がるというよりは、何か時間や、何かしらのアプローチが必要と感じた。ただ、今回のスケジュールではイベントの実施と報告会ということのため、何か目指す今後という部分にどんな段階をイメージされているのか、そこもアンケートをとってというお話かと思うが、現段階で、こんな状態を想定しながら10月の催しをする等、何かアピールポイントをお話いただければと思う。

説明者 配信のプラットフォームは、仙台市経済局の仙台 NEWSCAST という暫定のプレスリリースを発行するページがある。4月に、弊社の前でコロナ禍により困っている事業者さんや、コロナ禍の中でも色々事業を始めようとしていらっしゃる方がいたため、登録をして、既に4件の情報はIKI ZENの名前で、プレスリリースも発信させていただいた。今回も引き続き、そちらのフォームを使うということである。また、確かに音楽イベントと防災は、なかなかすぐに結びつくものではない。時間はかかるものと思う。特に、私達がやっているジャンルのことで、どんな繋がりがあったかや、どういことが起きたのかについては、なかなか外への報道できちんと出ていった部分はなかったと思う。ただ、一緒にこのイベントをやっているもう1人の個人の方が、もともと被災をされた石巻の方のため、我々の日常会話の中では、こういうことがあったよね、あんなことがあったよねという話は、よくしている。ただ、我々の中だけの話として終わらせてはいけないと思っており、1個1個実は我々の音楽のプロジェクトから発生したものとして、例えば陸前高田では瓦礫を作ったガレキホルダーというものがあつた。また、ご存知の方も多いと思うが、浜のミサンガというミサンガのプロジェクトもあつた。私は、あの時はその浜のミサンガの方の立ち上げに関わっていた。やはり、アクセサリ等々で防災の意識を喚起するというこでやってきたが、10年後、その先にまた大きな災害がいつ起きるか分からないため、まずはそのコミュニティ内に参加していただくことで、安否の確認はできるとか、誰がいるかを認識できることが大事と思う。改めて、そこら辺のことも考えながら、いかに我々以外の活動団体に繋げていけるかを、アンケートをとりながら模索していきたい。

(4) 令和2年度まちづくり活動助成申込事業（追加募集）の評価及び選考

①Via 仙臺

(ア) 協議結果：助成事業として採択する。

(イ) 評価委員からの意見

- ・様々な文化・歴史の記憶を幅広い世代が学びやすいよう、新しい技術も取り入れ、地域の魅力を高める事業となることに期待したい。
- ・来年度以降の展開も想定しながら、事業実施体制については、新たなボランティアや賛同者を増やす工夫を検討してほしい。

(ウ) 助成額について

- ・助成額を25万円とすることが妥当である。

②一般社団法人 IKI ZEN

(ア) 協議結果：助成事業として採択する。

(イ) 評価委員からの意見

- ・ターゲット層を絞ることなく、さらに幅広い世代や地域の方々と交流できる機会を検討してほしい。
- ・アンケートについて、設問設計や集計費にかかる費用等をきちんと計上しているため、結果については SNS 等で公表し、その結果を踏まえて次年度の活動へとつなげていくことを期待したい。

(ウ) 助成額について

- ・助成額を 31 万 8 千円とすることが妥当である。

(5) その他

- ・一般社団法人アート・インクルージョンの変更申請について協議

4 閉会